

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

日 時：平成27年7月10日（火曜） 13時30分から 15時45分まで

場 所：習志野市役所庁舎分室6階 大会議室

委員出席者：朝倉委員（会長）、田村委員（副会長）、寺木委員、師橋委員、時田委員、
菅野委員、小林委員、古賀委員、布川委員
（欠席：有田委員）

事務局出席者：諏訪企画政策部長、遠山企画政策部次長

真田企画政策課長、越川主幹、伊藤主任主事、柴垣主任主事

議 題：（1）会長・副会長の選出について
（2）会議の公開について
（3）まち・ひと・しごと創生総合戦略について
（4）習志野市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略について

議 事 録：

市長	<u>委嘱状交付</u>
	<u>市長あいさつ</u> 皆様、こんにちは。市長の宮本です。習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会委員の皆様におかれましては、本日は、お暑い中、そして、大変お忙しい中にも関わらず、お集まりいただきありがとうございます。 今月1日に、総務省から、住民基本台帳に基づく1月1日現在の人口動態調査が発表されました。それによりますと、国内の日本人の人口は、前年より27万1千人ほど少ない、1億2千616万3千576人となっています。これは、6年連続の人口減少であるとともに、過去最大の減少幅となっています。また、65歳以上の高齢者は、約3千268万人で人口の25.9%を占め、過去最多となる一方で、15歳未満の年少人口は、過去最少の約1千631万人と、高齢者の半分以下となっています。生産年齢人口の減少ということもあるわけですが、国は、先日発表した「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」において、平成27年は地方創生元年となる、と述べています。しかし、同時に、地方創生をめぐる状況の厳しさについても言及しています。平成26年の合計特殊出生率は1.42ということで、9年ぶりに低下し、人口減少に歯止めがかかっていないこと、さらに東京一極集中の傾向が加速化している等との現象があります。 こうした状況の中、習志野市の人口は、平成31年に約17万4千人でピークを迎え、それ以降は減少に転じていくことが予測されています。本市も東京圏の中の地方ということになります。あらゆる知恵を絞り、子育て支援や若者の定着・定住の促進等、有効な施策を確実に実行することが必要です。

本市は県内で、浦安市に次いで2番目に小さい市です。一方で人口は16万7千人と10番目、人口密度は県内3番目という特徴を持っています。人口と面積は千葉市稲毛区とほぼ同じで、その中で独自に市政を運営しているということから、結束力、親密度の高さは十分に本市のまちづくりに生かせるであろうという自信を持っております。しかしながら現在の情報化社会の中、様々な考えがある中で、何を選択し、どこに集中し、資源を投下していくかということが大きな課題となっています。このまま何も施策を講じなければ社会保障費を中心として、税金の使い道が限られてきてしまいます。また、データで示されているように人口減少、少子超高齢社会を迎えれば、税収は減少し、必要な施策が何もできなくなってしまいます。昨年度からスタートしている基本構想の中でも、12年後の将来都市像を「未来のために～みんながやさしさでつながるまち～習志野」とし、中でも、財政健全化、公共施設の再生、協働型社会の構築、ということを3本柱にしています。これからまさに市民主役のまちづくりを進めていこうとしている中で、協働型社会の象徴となる今回の懇話会でございます。あらゆる分野の皆様で構成されており、ぜひとも忌憚のないご意見をいただきたいと思います。市の様々な取組自体の浸透性ということも行政として十分意識しなければならぬ中で、皆様には、そのような視点もお持ちいただき、本市の道しるべを導き出していいただきたいと思います。本市の未来を市民とともに作っていくというこの懇話会の趣旨をご認識いただき、皆様方のお力を賜りたく、ご挨拶とさせていただきます。

委員紹介

〔事務局より、委員及び職員紹介〕

開 会

議題(1) 会長・副会長の選出について

〔委員の互選により、会長に朝倉委員、副会長に田村委員を選出〕

議題(2) 会議の公開について

〔会議の公開・非公開について議決し、本会議は原則公開とすることを全会一致により決定〕

議題(3) まち・ひと・しごと創生総合戦略について

＜資料0に基づき、国の標記戦略等について事務局より説明＞

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

会長	はい。どうもありがとうございました。まず国の流れについてご説明をいただきましたけれども、只今のご説明の中でご質問があればお受けしたいと思います。何かご不明な点はございましたでしょうか。あるいは、只今の説明になかった、後ろのほうの資料でいくつか細かく書いてある概要版もありますので、そこらも含めて確認したいことがあればお示しいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。特にご質問等はよろしいですか。もしおありでしたらお願いしたいと思います。はい、お願い致します。
寺木委員	市長のお話にもありましたけれど、そもそも地方向けのことであると、そういう政策のお話が、まち・ひと・しごと創生事業関連の政策であると理解をしております。市長のお話にもあった通り、首都圏の中の、しかも東京都と千葉市の大都市に挟まれていて、市長は一地方という言い方をされていましたが、しかし、本来これで心配されているような所からはかなり遠い所に位置しているだろう、ということで行くと、もともと示されている国の考え方とは違ったやり方をしなければ習志野市の課題解決にはつながらないのではないかと思います。ただ政策総合パッケージが示されているので、国はこうやるよと、という話になってしまいますよね。そうすると、そこから外れるようなことはしづらいのかな、と思います。とすると基本的な考え方、これからご説明があるかと思うのですが、その辺りをこの後の説明で重点的にご説明していただきたいというお願いです。
会長	はい、ありがとうございます。今の件に関しまして、もしこの段階で事務局からコメントがあればお願いしたいと思います。一つは、この後その辺の説明を重点的にいただきたいということと、もう一つは、もともと国がターゲットにしている所と習志野市のポジションというものが若干違うのではないかということに関して、もしコメントがあればお願いします。
事務局	はい、おっしゃる通り千葉県は東京圏です。習志野はそういった意味では東京圏の一つであると思います。ただし、策定において国も話をしているのですが、東京一極集中という中で、広い意味で東京自体から人を呼ぶということの中では習志野市の立場でも是とするものであると。
寺木委員	その場合の東京というのはどこを指すのですか。
事務局	東京 23 区と言いますか、東京という都市そのものだと思います。
寺木委員	自治体としての東京のことを指しているのですか。

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

事務局	そうです。また、総合戦略の中で人口減少への対応がありますので、そこがクローズアップされているのですが、大都市圏という中では超高齢社会、そういうところが一つポイントになってまいります。そちらの部分は大都市圏において、既に今後 10 年の間に爆発的に後期高齢者が増えていくということもありますので、そういった状況への対応も大都市圏に求められている総合戦略の役割であると思っております。
寺木委員	ありがとうございます。
会長	はい、ありがとうございます。他にご質問等ございませんでしょうか。お願い致します。
小林委員	一つ確認させてください。先ほど主な重要業績評価指標についてご説明いただきましたけれども、ここにあるような農林水産業の成長産業化ですとか、あるいは地方移住の推進、これら全ての項目について習志野市も目標値を掲げなければいけないのですか。
事務局	いえ、そういったことではありません。地方の地域の実情に即したということですので、これらはあくまでも国が掲げているものです。そういったメニューの中で、自分たちの実情に合ったものをということです。戦略の範囲において、あくまでも独自性に任せられていると解釈しております。
小林委員	独自の目標設定も許されているし、メリハリをつけてこの目標は当該市では意味がありませんと言って無視することもできるということですね。
事務局	そのとおりです。
小林委員	分かりました。
会長	ありがとうございます。先ほどの、事務局の説明の中でも KPI では特に若者の話とか、あるいは女性の就業支援といったところに重点が置かれるというお話だったと思いますが、そういう理解でよろしいでしょうか。
事務局	はい。
会長	ありがとうございます。他にいかがでしょうか。もしご質問があればまた改めて

	という事にさせていただいて、続きまして、習志野市のまち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略についてご説明をよろしくお願い致します。 <u>議題(4) 習志野市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン 及び総合戦略について</u> ＜資料1に基づき事務局より説明＞
会長	ご説明ありがとうございました。最初の国のところでご説明いただきましたように、基本的に総合戦略というのは地方人口ビジョンと地方版総合戦略とセットで作るということになっており、言ってみれば今ご説明いただいた人口ビジョンのところは、習志野市における現状分析であるという捉え方でよろしいかと思います。このところは、われわれが内容としてコメントをするというよりは、事務局でこれに基き戦略を作っていただくことになると思います。これから先の総合戦略を考える上でも、ただ今ご説明いただいたところで何かご不明な点があればここで確認をお願いしたいと思いますので、もしご質問があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。はい、すいません、菅野委員からお願い致します。
菅野委員	人口増減の社会増減の部分について、開発があれば人口が増えるというのは、これは当然のことだと思うのですが、近隣他市とのやり取りの中で、習志野市から八千代市に向けてはずっと、開発の有無とは限らずに転出超過が続いているということが、少し他市とは比べて特徴なのかと思いました。その辺も何か一つのヒントになるのではないかという感じがあったので、ぜひ調査する上で、この八千代市だけは特徴的な動きをしていますので、お調べいただきたいと思います。
会長	ありがとうございます。このことについて何か現時点でお分かりになっていることはありますか。
事務局	八千代市においては、土地の広さということもあると思うのですが、継続した開発が続いておりまして、東葉高速鉄道の開通ということも影響しているのではないかと思います。格段に交通の利便性が八千代市さんで上がっていて、それに伴い住宅開発をしているということ。それから恐らく広さ、土地の価格といったところもあるのかなと思うのですが、そういったところも八千代市さんに、もしかしたら魅力を感じていらっしゃる方が多くいらっしゃるのかなということは想像します。詳しい分析にはまだ至っておりません。

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

会長	引き続きそのところは、ぜひよろしくお願い致します。寺木委員お願い致します。
寺木委員	すみません。授業でこういうことをやっておりますので、ちょっと技術的なお話をいくつか。学生に向かって説明しているのは、国勢調査を信用しなさいということです。市の住民基本台帳、例えばうちの息子は家におらずに下宿しているのですが、下宿先では住民登録しておりません。というような理由で補足率は悪いよという説明をしております、どのくらい補足されているのか、もし分かるようでしたら、参考までにというか、技術的な質問で申し訳ないのですが、知的好奇心と言いますか、そちらの話です。
事務局	16 ページからのお話でしょうか。
寺木委員	はい、印刷されていますよね。
事務局	今現在、まだお示しできなくて大変申し訳ありませんが、転入転出者を対象としたアンケートをこの3月、4月にやっております、そちらでも補完していこうとは思っています。国勢調査については実は今年が調査の年で、約5年前の数字ということになりますので、できるだけ新しい数値を傾向として求めたほうがいいかなと思ひまして、市民課に依頼して異動者情報ということで捉えたものです。
寺木委員	その話はよく分かるのですが、例えば2010年と、今年2015年。10年が大調査の年、15年がマイナーな調査の年です。住民基本台帳の合計、2010年の国勢調査、当時の住民基本台帳の数字を足したところで、2010年の数字とは多分一致しないはず。それは、まじめに登録している人たちが100パーセントではなく、単身赴任の方は自宅に住民票をおいておきながら仕事先はこっちです、という方とか、学生で実家に置いてある方。そうすると補足率がかなり国勢調査とレベルが違ってきてしまいます。違った数字を組み合わせるのは、事業としてはそのようにやらざるを得ないので直せと言うつもりは全然ないのですが、理想的にはその辺の補正をかけるべきだろうと思います。一番気になるのは補足率がどれくらいあるかです。例えば2010年の国勢調査の数字と市側の住民基本台帳の数字にどのくらいのずれがあるのか、というのをお示しいただけると、参考になります。
事務局	分かりました。今の時点では大体住基人口と常住人口との差は1000人くらい

第 1 回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

	ですので、補足率について、後ほど調べて提示させていただければと思います。
寺木委員	あとすみません。お使いになっているのはコーホート要因法ですね。新規の開発について、奏の杜とかユトリシア、仲よし幼稚園の跡地、それぞれ新規に入る人口について 5 歳階級くらいで年齢構成を推定すると思います。その場合の推定の仕方というのが、ある程度信頼性がないと自然増のほうに効いてくるはずで す。女性がどのくらい居るのか、しかも女性の年齢まで気にしていますから。その辺りをどのようにされているのか、またどのくらいの幅で変動するかという点を注意しなければいけないと思うのですが。もっと言いますと、コーホート法は状況がある程度変わらない、それが暗黙の前提のうちにあって、そうすると、人口増加から減少に転ずる時期に、コーホート要因法でそれなりに精緻には考えられていますけれども、それを使っていて予測をして、しかもこれだけ長期の予測を使って大丈夫なのかというのが正直な感想です。あまり先まで考えずに、信頼できそうな範囲内でとどめておくしかないのではないかなと思うのですが、その辺りお考えがあれば教えていただきたいと思います。
会長	基本的には国が示しているようなやり方に準じているということですよ。それを踏まえて、もしコメントがあればお願いします。
事務局	国は 2060 年までの推計を示しているのですが、地方は 2040 年頃まででも構わないという言い方をしています。また各市が独自の推計がある場合はそれを使用しても構わないということで、ある種の目安としては示しています。千葉県も恐らく 2040 年までで人口ビジョンを作ろうとしていますし、各市まちまちなのですが、恐らく 2040 年くらいまでは作ることにはなるのかなと思っております。本市の各種の計画も今、独自推計を使って作っておりますので、本市としましては 2041 年までの独自推計を使った中でシミュレーション等を行っていきたいと思っております。
会長	その辺りの話は 1 度またぜひ詳しく聞いていただきたいと思います。他にご質問があればお願いしたいと思います。はい、古賀委員さん、お願い致します。
古賀委員	最後の紫の線で、産業別就業者数のところにある、最近 10 パーセントにもなっている不能分類というのは、どういうお仕事を指すのか教えていただきたいと思います。
会長	一番上の図ですね。不能分類って一体何かということですね。

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

事務局	今詳しい書類を持ち合わせていないのですが、国の分類の類型がありまして、その中で具体的に示されていないものだと思うのですが。後ほどお答えさせていただいてよろしいでしょうか。
会長	もし今のお話で、特にどんな産業が増えているのか、といったことが分かるようであれば、ついでに教えていただければということかと思いますので、よろしくお願いします。他にいかがでしょうか。私から2点確認させていただきたいと思います。一つ目は、これから作る地方人口ビジョンと地方版総合戦略と、本市の基本構想、基本計画の関係が、どのようになるのかということをお教えいただきたいというのが一点目です。もう一点は、これも私の知的好奇心のところですが、22 ページの、合計特殊出生率の話のところ、流山市が近隣では突出して高いというお話がありました。ところがこの数字を見てみると、流山市さんも平成22 年頃までは他市とほとんど変わらなかったのですが、23 年頃から徐々に差が出てきているのかな、と見えるのですが。流山市さんの中でどのような取組がなされているかがもしお分かりになれば教えていただきたいと思います。以上2 点です。よろしくお願いします。
事務局	1 点目につきましては、次の総合戦略のご説明の中でお示ししてもよろしいでしょうか。
会長	はい、分かりました。そのときで結構です。
事務局	2 点目の流山市さんの部分ですけれども、大きく二つあると思います。一つは政策の部分ということと、もう一つはつくばエクスプレスの開通ということがあるのだと思います。これはいろいろご意見のあるところでもあります。交通の利便性の向上というのは確かに非常に大きくて、秋葉原までも 30 分圏内で行けるようになり、子育て世代を呼びこめたということがまず一点でございます。それからもう一点と致しまして、流山市さんが、首長さんのお考えがそういった方向で顕著に表れていると思うのですが、それまで専業主婦層と言いますか、男性が働いていて女性が専業主婦のような類型のお子さんがいらっしゃるモデルといった、習志野市もそうだと思うのですが、そういった方がたくさん住むようなまちづくりを高度成長期から進めてきた中で、明確に、男女共働きでお子さんがいらっしゃる、DEWKS という言い方をしていますけれども、担税力が高い方々を市内に積極的に住んでもらおうということの中で、また市が独自に区画整理と言いますか、開発をされているという部分もありまして、積極的に都心から人を呼び込むということをされております。流山市さんのターゲットは東京 23 区と横浜市と伺っているのですが、そういった所から明確に人を呼んでくるということ

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

	で、そちらから本当に移り住んできた方を例えばポスターのモデルに実際に使って、一般の方なのですけれども、非常に積極的にシティセールスをされています。山手線に広告を出して、それ自体に即効果があったということではないのですが、恐らく2次使用という形でどんどん取り上げられました。「母になるなら流山市」というようなコピーですとか、「都心から一番近い森のまち」というようなキャッチフレーズの中で、マーケティング課というものを設置したり、そういったシティセールスという部署を設置したりということで、積極的にそういったことを図っていったという経過があったことが効果として表れていると、その2点が言われております。要因としては交通の利便性の高さというのはやはり大きいと思うのですが、その中で流山市がターゲット層に選ばれるような戦略を市として打ってきたことが実を結んでいると伺っております。私共も2年くらい前に視察させていただいたことがあるのですが、そういった戦略を市で展開しているということが実を結んでいるということがあると思います。子育てにつきましても、いろいろな対策等を打っていらっしゃるし、県内の中でも先進的な取組をされていると思っております。
会長	はい、ありがとうございます。一つだけ補足で教えていただきたいのですが、流山市のような施策は、この3年くらいで短期的に効果が出るような話なのか、それとも割と長期的にずっと水面下でやっておられたものがこの3年で花開いて見えてきたという形なのか、その辺はどちらだと分析されていますか。
事務局	3年で実を結んだということはないと思われます。恐らく平成20年くらいからは取組をされ始めているのではないかと思います。
会長	それが実を結んできたというのですね。
事務局	そう伺っております。
寺木委員	今のお話は、特に社会増の話としては理解できるのですが、出生率の話は、そういう産んでもらいたいというところがどうやって伝わってきたかということで、「母になるなら流山市」という話は分かります。それ以外の話は社会増の話のご説明のような気がします。
会長	近いからといって産みたくなるとは限らないということですよ。
事務局	若い方が入ってきた中で2人目の方を、ということでしょうか。

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

寺木委員	ですから2人目を産ませるための工夫というところが出生率の説明になるわけですね。
事務局	子育て支援ということが出生率の向上に直接つながったのかということはあるのですが、例えば子育てに関していうと、保育所のステーションをやられています。駅でまず一時的にお子さんを一回預かって、バスで少し遠い保育所に送っていくというようなシステムをつくるなど、そのような工夫はされていると聞いています。おたかの森駅前の、非常に田舎的な要素もありながらも、都会的な要素もあるといったまちづくりをされた中で、非常にうまく子育てをしたいと思わせるようなまちの環境と言いますか、そんなところをコンセプトにしてやっていらっしゃることはあったのかと思います。
寺木委員	TXの話は、交通が良くなったというだけで、そういう意味では習志野だって負けてないわけですよね。どちらかというと、出生率が上がったという子育て支援のところが効いたのではないかなという印象があるのですが。
会長	今の社会増のところは、私も聞いていてその通りだと思います。通勤時間が短くなったから子ども産みましょうということはないと思うので、その辺はまた引き続き教えてください。ここで、時間の関係もございますので、総合戦略の骨子案についての説明をよろしくお願い致します。
	＜資料2, 3, 4に基づき事務局より説明＞
会長	はい、ご説明ありがとうございました。ただ今ご説明をいただきました資料2それから資料3、資料4についてご質問あるいはご意見があればお願いしたいと思います。
事務局	申し訳ありません、先ほど古賀委員さんからご質問がありました分類不能の部分について回答させていただきます。いずれの項目にも含まない職業ということで、主に調査票の記入が不備であって、いずれの項目に分類すべきか不明の場合。記入不詳で分類し得ないものということで、そういった不詳の部分が多く含まれてしまっているということです。
会長	そのようなものや無回答が増えてきたりしていますということかもしれません。
事務局	郵送等回答方法も少し変わってきていることもあるかと思います。以上でござ

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

会長	います。 国勢調査も大分協力者が減ってきたということが問題になっていますが、そのようなことも理由としてあるかもしれません。ありがとうございました。資料2、資料3、資料4につきましてご意見あるいはご質問をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。まず事務局にお伺いしたいのですが、今日はどのような形でご意見を賜ればよろしいか、ということなどありますか。あるいは資料2についてこれから先このような方向で進めていくので、ぜひこういうところについてのコメントが欲しいといったようなことが、もしあればお聞かせいただきたいと思います。
事務局(企画政策部長)	私からお話をさせていただきます。長いこと担当から人口ビジョンの部分と戦略の部分とをご説明をさせていただきました。人口ビジョンにつきましては、これから先のことはまだ記載はしておりませんので現状分析にとどまっております。総合戦略自体も現状分析を基にして私共が骨子案として作り上げたものであります。一部独自の人口推計に基づいて組み上げておりますが、このことについて、それぞれ委員の皆様方はご自分の得意とする分野というか、出身母体がございますので、そういった部分で習志野市にはここに書かれていないことで、「このようなことが必要なのではないか」、あるいは「ここをもっと強調すべきではないか」というようなご意見あるいはご感想等をいただければ、その部分を皆様のご協議の中で加除するというように進めさせていただければと思っております。
会長	はい、ありがとうございます。只今の説明で非常に分かりやすくなったと思います。この骨子で示されていることに関して足りないこと、あるいはこの辺にアクセントを置いたらいいじゃないかといったようなところを中心にご意見、あるいはそれに伴うご質問があればお願いしたいと思います。どなたからでも結構です。よろしく願い致します。いかがでしょうか。はい、では小林委員さん、お願い致します。
小林委員	基本目標1から4までありますけれど、意見はどれについてでもよいということでもいいですか、それとも順番に進めるお考えですか。
会長	いや、どれでも結構です。それほど分量もありませんので。
小林委員	なるほど、分かりました。一つ、全体的な中でキーワードとして重要だと思っているのは連携だと思えます。連携というのは民間との連携もそうですし、他の

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

	自治体との連携というのもあると考えます。特に役所が何か行方際には自分の権限の及ぶ範囲の中で考えがちなのですが、そもそも今どき一つの都道府県の中で収まることも少なくなっている上に、さらに基礎自治体の中だけで完結させることはやはり難しいと思うのです。まして 16 万人前後の習志野市は自分のところだけで何か完結しようと思うと難しいと思います。さらに言うならば、交通利便性が良いということは、確かに夜は習志野市で寝ているかもしれないけれど、昼間は東京で働いていて、例えば市議会議員選挙あるいは県議会議員選挙という、この人誰だと、全く関係ないようなことを思ってしまう人もいます。そういう意味では、より広域にいろいろな分野で連携するということをお考えいただいたほうがよろしいのではないかと感じます。
会長	はい、ありがとうございます。もし只今のご意見に対して事務局から何かコメントがあればお願いします。
事務局(企画政策部長)	ありがとうございます。確かに習志野市は 20 平方キロ足らずの市で、現在 167,000 人の人口となっています。特に交通の結接点ということを考えますと、JR 津田沼駅、あるいは新京成電鉄の新津田沼駅、京成津田沼駅、八千代市、船橋市、千葉市から、それぞれの人が行き来するルートがありますし、3 市に隣接をします。そういったことでは、特に公共施設のストック・マネジメントという部分では、例えば将来的には公共施設を共有するとか、そういったことも長期的な中では考えていかないといけない課題だと、私共は考えています。その意味では今お示しをした基本目標④の中で「施策の基本的な方向」で★印を四つほど掲げております。★印の一番下には「他自治体との連携施策の推進」ということも掲げさせていただきました。そうした中ではもう少し具体的な部分もこれから先、議論を深めてまいりたいと思います。
会長	はい。これについて何かコメントがあればお願いします。
小林委員	2 年ほど前まで長野支局にいました。その時の官のエピソードなのですが、長野でオリンピックを開催しました。オリンピックを誘致する時に IOC 委員の方々を接待するわけですが、良いか悪いかは別にしてお夫人方まで接待しなくてははいけません。その時に、長野に来るにあたっては松本城を見てもらい、善光寺参りをしてもらい、というようにエンターテインメントの計画を練るわけです。その時に、ある民間の委員が発案して、「外国から人が来ます、まして日本に初めて来る人が多いかもしれない。そういう人たちに長野県内だけ見せて喜ぶのか。」ということで、長野オリンピックを開くために、北海道や京都、その他の全国各地に連れていったという話を聞いたことがあります。役所の人はどうして

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

	も自分の権限の中で物事を収めようとしがちですけれども、なるべく手を広げてほしい。状況は隣県の他市さんも同じですので、連携というのをもっと広くお考えになったほうが魅力のある計画になるのではないかと思います。
会長	はい、ありがとうございます。他の方でご意見をいただきたいのですが。まだご発言のない方でいかがでしょうか。はい、では時田委員さん、お願い致します。
時田委員	「基本目標と施策の基本的方向」ということで4項目にわたり、また最後には各種いろいろ書かれているのですが、これは企画政策部で全部抱え込んでやることではないと思います。これらのことをどういう形の中で各担当に振り分けて、どのようにまとめていき、計画を創り上げていくのかというところをお聞かせ願いたいです。
事務局	庁内の策定体制について説明がなく、申し訳ありませんでした。庁内では市長を本部長としまして副市長等を副本部長としております策定本部会議というものを設置しております。こちらは各部局長級が委員となっております。また作業部会が下にありまして、関係各課、商工振興課や農政課をはじめとしまして、子育てに関する課、その他関係各課の係長級が作業部員として、実際の策定はその作業部員と共に事務局で担ってきております。そちらを本部会議に上げて意見をもらい、また戻して作業部会で話し合う、という中で今回の案を作成いたしました。
会長	よろしいでしょうか。はい、どうぞ。
時田委員	分かりました。しかしですね、これは基本的な方向であって、細かいことについてどうこうという話ではないですけれども、これらの人口減等の問題については、もうずっと行政の中では取り組んできた課題ではなかったかと思います。それを今振り返ってこういう今後の目標を出したが、今までやってきたことと今後やること、どれだけ違うものができるかというような、そういう自信はありますか。
事務局(企画政策部長)	非常にお答えしにくいところだと思うのですが、実際には平成10年前後でしたでしょうか、国がエンゼルプランを出した頃から少子化という部分については問題化されてきたということがあります。習志野市も当然のことながら市独自のエンゼルプランというものには取り組み致しまして、今まで進めてきました。ただ、先ほどお示しをしたように、合計特殊出生率だけを取って見れば大きな変化

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

	もなかったということでもあります。しかしながら今般、国も総合戦略ということで地方創生として大きな力で働きかけている、という中では、国自身が地方を金銭的な部分でも支援をしようと、しっかりと腹をくくっていると私たち地方自治体は考えています。その意味では、今回の習志野市の地方版総合戦略を基本構想に基づいて国の押す部分と新たに加える政策、そういったもので少し練り直した中で、国から交付金なり補助金なりをしっかりと取り込んでいながら、今一度習志野市としての取り組みを固めたいと考えております。その意味でも今ご説明しましたように各部局長を本部員と致しまして、それぞれに意見を述べさせているということがあります。いろいろご心配はあろうかと思いますが、はっきり言って自信があるかと言われると少し揺らぐ部分もあります。ですが取組自体は国あるいは県としっかりと連携をして、金銭的な支援を受けながらしっかりと取り組みたいという決意はございます。以上です。
会長	ありがとうございます。せっかくですからお金を有効に使って、「習志野はすごい」という話になるように持っていきたいですね。ぜひよろしくお願い致します。布川委員さんいかがでしょうか。もし何かコメントがあればお願いしたいと思います。
布川委員	いろいろとお話を聞かせていただきましたが、私の思いとしては、これが全てうまくいけばいいと思いますし、内容としても素晴らしいものだと思います。ただ具体的にこういう目標がありますというように出していると思いますが、それでもこれを考えて難しいけれどといったものもあると思います。例えば、ちょっと今は出てこないのですが、「習志野ブランド」という単語があったかと思います。
会長	5 ページ、基本目標②の上から 5 行目にあります。
布川委員	今私たちの頭の中で「習志野ブランド」、習志野といえれば何かと言われると、皆さんで思ってくるもの、出てくるものが違うと思います。そういうものは多分皆さんバックグラウンドが違うので、そのようなところも皆さんが交流とか意見をくみ取り、どういう考え、どういう視点があるのかと考えていければ良いかと思います。内容としてすごく良いと思うところもあります。例えば先ほどコメントとしてあった、交流とか地域連携が大事、広い所でということもあると思います。連携するのが大事というよりも、何を連携すればいいのかということをしっかき考えた上で進めていかないと、結局ただいろいろと連携しましょうと握手をただの内容になってしまうと思います。そこで例えば一つの自分の考えですが、まち・ひと・しごと創生は国の政策でやりましょうという背景が確かある

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

	と思うのですが、この国の政策の中で、地方公共団体が自主性を持って考え、自分たちでやっていくためにどうすればよいかということであって、国のパッケージの中を見ると、周辺地域の、例えば船橋市などと連携してどういうことができますよ、というところまで考えなさいというパッケージはあまり入っていないのかなと思います。もしかしたらそれが習志野市の独自性がある、まち・ひと・しごとビジョンを作るとしたら、周辺地域と連携するとどういうことがあるかということや、習志野市の中のデータ、そういう入ったり出たりするところ以外にも、周辺地域と連携したらどういうことができそうかということまで踏み込めたら、より今後にも政策としても、国の政策レベルで連携どうこうというものを、これを参考にしていこうと思うので、そこで使われていたら良いと思います。大変だと思いますが、とりあえず私の意見は以上です。
会長	ありがとうございます。何か事務局からあればお願いします。よろしいですか。師橋委員さん、いかがでしょうか。
師橋委員	5 ページの「基本目標②」の「大学生が」というところで、少し学生目線でお話しさせていただければと思います。市外から通学してくる学生ですと、大学の校舎に入って授業を受けて帰っていくということで、ほとんど習志野市を素通りしてしまうような感じです。食事についても学食が充実していますので、町の食堂に行くようなこともありません。私が思いますのは、地方出身で習志野市に生活の拠点を構えて大学に通って来るような学生が、進路を、就職を首都圏に構えた場合に、例えばアパートの家賃が安いとか、そういった利便性を考えてそのまま住み続ける。それから、もう少し長い時間、数年生活してもらい、結婚あるいは子育てまで考えたときに、本当に習志野市が魅力のあるまちだというような、生活に便利だとか、そのようなまちになっていけるのかというようなことをもう少し盛り込み、あるいはそういったことも可能にできればよいという感想を持ちました。以上です。
会長	ありがとうございました。何か事務局からコメントはございますか。全くその通りだと思います。
事務局	ありがとうございます。全くおっしゃる通りだと思います。まちの魅力ということが一番で、学生さんたちが習志野市をどう思っているのかという現状認識というところから、3大学の学生さん 1500 人を対象にアンケート調査を行っております。これも次回に結果をお示しできればと思っております。また先日東邦大学さんのほうで若者意見交換会を行い、11 人の学生さんから生のご意見をいただくことができて、私たちとしても勉強になりました。まさにお

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

	っしゃる通りで、習志野市に行きたいお店がないですとか、一番衝撃的だったのは習志野市が私たちにとどまってもらいたいと思っていることを初めて知ったとの発言があり、なるほど、そこに私たちの努力が足りないなということを痛感したところでもございます。そういったご意見もいただきながら、学生さんは習志野市に大きな活力を与えていただいている存在でもありますので、こういった方々の意見、まちの魅力を感じていただけるようなことを、この総合戦略に盛り込んでいけたらと考えております。以上です。
会長	はい、ありがとうございます。田村副会長いかがですか。もしコメントがあれば、お願いします。
副会長	今おっしゃられたように、思い浮かぶことは断片的にいろいろあります。私の地元は大久保なのですけれども、あれだけ乗降客数があり、大学生も通学しているのに、商店街はシャッター街という現実があるのは本当に考える余地というか、取り組まなくてはいけないのかなと思います。もう一つは女性会で今、合言葉が「おせっかいおばさんにならしましょう」ということで、若い方がなかなか結婚しないというのを少しでも支援しようということで、来週も婚活のセミナー、ご本人だけでなく息子さんや娘さんがなかなか結婚しないけれども、そういう話を出すだけで拒絶されてしまうという方々とか、周りにそういう人がたくさんいらっしゃると思うので、そういう方々に何かヒントをもらっていただくというセミナーを開催するのですが、そういうところも市民レベルで、本当におばちゃんたちの力から何かできれば、ということをやっています。また、うちの娘や息子を見ますと、結婚するということから、今の若い方はずっと不景気な時代が続いたということで、現実的な人が多いということです。何か計画を立てて、自分がここのレベルまでいくまでは付き合っているが結婚しないとか、子ども産むのはこの年になって何か一つ成し遂げた後にならないと子どもは作らないとか、そういう方が多いですね。うちの孫が生まれるときも、何月に生まれると来年の保育園に入る時期がこの時期なので、それに合わせて、ということも友達同士で話し合って、そういう考えの基で子作りもしているという驚きの、私たちの古い時代からは考えられないようなことがあったりします。そういうことも理解しながら、というか、そういう意見も取り入れながら、こういったことも紙の上のことだけではなく、身近な意見を取り入れながらというのも大切だと思います。柏市への研修に行ったのですが、それこそ産官学一体となって、あそこは大きな商業施設が中心にあり、東京大学があり、あとは三井不動産と連携して、県などの力もかなり入っているのかと思いますけれども、2020年、2030年に向けて具体的な未来都市作りをしていると思いました。習志野市も大学があったりして、割と条件はそろっているはずなのですが、先を越されたかなと感じます。財源の違い

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

会長	なのかなという悔しい思いをしたことがあります。そうした市民レベルだったり、若い人の力だったり、一人ひとりの人的資源の掘り起こしがとても大事なのではないかなと思います。 はい、ありがとうございます。ぜひ、民間にある情報をうまく集約していくことと、連携って言うのですかね。ぜひ今のお話は中に入るようにしていただければありがたいかなと思います。寺木委員さん。
寺木委員	大学に移る前、入ったときは建設省だったのですが国交省になって研究所におりました。なので、国の役人が大体こういったもので何を考えているかというのはある程度は想像がつかます。それでビジョンと戦略と両方作れということになっています。これを別々に切ってしまうと一つの課題の中で二つ作る意味がないので連携させる。ビジョンの中で挙げられた課題が戦略の中で解決されるという流れが理想的なストーリーになりますよね。まだこの後続くのでしょうから、ここまでの課題で出てきているのが、ビジョンのほうで 25 ページの 4 項目。たまたま 4 つなので、これが戦略の中の基本目標の 4 つに該当するように見えてしまいます。4 項目の課題が戦略の中の 4 つの基本戦略で解決するかというと、あまり 1 対 1 には対応していません。現段階ではまだ途中ですので、これがビジョンの最後のところで基本戦略と対応するような形で課題がまとめられていて、それが★印で示されている形が望ましいと思います、個々の基本目標の中の、それぞれの具体的な施策で解決できる、という話になっています。KPI までここで決めるわけではないですよ。この中で決めてしまうのですか。
事務局	KPI についても戦略の中でお示しする予定です。
寺木委員	その KPI がそれぞれの課題を基本戦略が解決する上での数値目標にならなくてはいけないわけですね。なおかつ毎年評価することはすごく難しいと思います。効果が、お話にあったように、何年もかかって結果が出てくるようなものばかりだと思うので、その辺りも含めて次回なり次々回なりお示しいただけると、もっと具体的な意見が私も含めて出てくるのかなと思います。ただ懇話会という位置付けからすると逆にあまり具体的な話ではなくて、もうちょっと理想的にはこうだよというお話をしたほうがいいのかとも思ひまして、その辺りはどうなのか分からないところです。
会長	わかりました。ありがとうございます。今の関係で言うと、われわれが多方面から集まってきて、言い方は悪いですが、言いつばなしでいいのかという辺りで、もし事務局のお考えがあればお願いしたいと思いますが、いかがでしょう

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

事務局(企画政策部長)	か。それでいいということなのか、総合戦略の形のところまでしっかり責任をもってほしいということなのでしょう。 今回の皆様方にお集まりいただき、懇話会という名称で組織をさせていただきました。行政的に申し上げれば、庁内にはこの他に審議会ですとか協議会といった附属機関と言われるものがございます。おおむね審議会といったものは、習志野市が「こういったものを検討してください。」そして、諮問という形でお示しをして、それについて「いやこうではない、こういう方向であるべきだ、これはこう違うよ、だからこう直してお答えします」というのが答申という形で私共に返ってくるというシステムがございますが、この懇話会の中では、諮問をして答申をいただくということは国も求めていると思います。ただ広くいろいろな分野の方から意見を聞いて、さらには議会の意見も聞いて、そして住んでいる皆さんの、直接的な意見もアンケートという形で聞いて、さまざま勘案した中で行政が作りなさいよと、いった形で示されております。皆様方からいただいたご意見を、修正できるもの等々を案としてまたまとめ直して庁内で、先ほど申し上げた本部会議という組織でさらに検討した中で最終型に近づけていきたいと思えます。先ほどから申し上げますように、忌憚のないところをぜひお聞かせいただき、今、寺木委員がおっしゃったように人口分析から見る課題と実際の戦略の4つの基本目標の点を含めて、工夫を私たちがさせていただくということで、ぜひご意見としてはいただけたらと思います。
会長	ありがとうございます。お約束の時間がもう過ぎていたので、そろそろまとめたいと思います。今日のご意見に関しては、もしこの場で言い切れなかったことに関して、例えばメールですとかファックスとかで事務局にお出しするといったシステムはありやなしやというのをまず一つ確認したいですが。
事務局	はい、結構でございます。申し訳ありませんがここで一点、先ほど寺木委員さんからお話しがあった補足率についてお答えします。平成22年の10月1日の人口ですが、国勢調査人口が164,530人、住基人口が160,359人です。割り返しますと補足率と致しまして97.5パーセントということになっております。
会長	それでは意見の提出についてはありでいいですね。この場でどうしてもこれだけはというご意見があればお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいですか。事務局のほうに追加でご意見があれば、来週の月曜日までにご意見をお寄せいただければと思います。もうひとつ事務局にお願いがあるのですが、事前に資料を送っていただけると思うので、委員の皆様にはお手数ですが、事前に資料にお目通ししていただくという約束で、出来るだけ説明を短くしていただい

第1回習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定懇話会 議事録

事務局	て、ご意見を頂く時間を長くしたいと思いますので、ご配慮いただきますようよろしくお願い致します。あと今後のスケジュールについて、お願いできますか。 <資料5に基づき、事務局から説明> 次回の第2回には、集約したアンケート調査の分析結果をお示ししたいと考えております。現在第2回を8月10日の13:30～15:30で予定しております。事前に出していただいた予定表の中で、調整させていただいたところですが、こちらの開催でよろしいか、ということと、第3回も8月27日木曜日、こちら午前午後とも会場は押さえているのですが、こちらについてこの場で開催日程をお諮りいただければと思います。よろしくお願い致します。
会長	はい、ありがとうございます。では次回の8月10日の13時30分からということで、スケジュールの調整をお願い致します。もう1つの方が27日の午前か午後、皆様のご都合の良い方で、ということで、なるべく多くの委員さんをお越しいただける時間に設定したいと思います。27日も13時30分から15時30分でよろしいでしょうか。
事務局	では10日と27日ともに今日と同じ、13時30分から15時30分という事で設定していただければと思います。それ以降はその時にご相談という事にさせていただければと思います。もし今からスケジュールを空けておいていただければ、ここに書いてある10月23日ないし26日を空けておいていただければありがたいという事で、よろしくお願い致します。ということで、時間が過ぎてしまいましたが、本日の懇話会はこれにて終了したいと思います。では事務局の方にお返しいたしたいと思いますので、よろしくお願い致します。
事務局	長時間にわたり、ありがとうございます。最後に1点だけ確認をさせていただきます。本日の会議の様子を写真撮影させていただいたのですが、こちらのお写真を市のHP、また報道機関へ提供させていただきたいと思っております。基本的にご了承いただければと思っておりますので、どうしてもご都合が悪いという方は後ほど事務局にご連絡いただければと思います。本日はありがとうございました。
会長	皆さん、ありがとうございます。また次回よろしくお願い致します。 閉 会 15:45 終了

